

\*\*\*\*\*

## 3・11を忘れない

～防災対策の重要性～

\*\*\*\*\*

### 第1章 プロジェクトの概要など

#### 1. プロジェクト名及び目的

プロジェクト名：3・11を忘れない～防災対策の重要性～

目的：防災という視点から私たちが地震などの災害に対して日ごろから心がけておくことについて考える。

#### 2. 代表者および構成員

##### ・代表者

日車 光佑 社会領域専攻 2回生

##### ・構成員

池田 敏浩 理科領域専攻 4回生

#### 3. 助言教員

武田 一郎先生（社会科学科）

### 第2章 内容や実施経過など

#### 1. プロジェクトの実施経過

##### (1) 施設見学

##### i) 京都市市民防災センター

この施設は京都市が市民の防災意識を高めるために作った施設である。まずは、身近な施設を見学することで、災害に備えてどのようなことをすればよいかということの第一歩を知るために訪問した。

##### ii) 神戸市立阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター

目的：阪神淡路大震災を契機に提唱された

「防災グッズ」について調査・研究。

阪神淡路大震災を機に防災グッズが提唱された。この施設が出している「非常持ち出し品リスト」があるのだが、阪神淡路大震災が発生した1995年の教訓をもとに、当施設が呼びかけて組織した防災グッズ委員会によって作成された。現在、公に配布されているものは2006年に第三版として発行されたものであるが、大震災を経験していない私たちと感覚の差が生じている。これが経験の差からくるものなのか、年齢の差からくるものなのか。

##### (2) フォーラム参加

文部科学省主催全国生涯学習ネットワークフォーラム2011に参加。ここでは、おもに「防災教育とそのありかた」について学んだ。全国から防災に関する有識者たちが集まり、事例交流等行った。

##### (3) 現地調査

実際に東北地方へ行き、現地の様子を視察するとともに、防災グッズのアンケート調査のため、岩手大学を訪問。岩手大学生協にお力を貸していただき、調査を行った。また、宮城教育大学でのアンケート調査も予定していたが、学園祭のため、調査を見送った。が、宮城教育大学が独自で行っていたボランティア活動の報告会をその日に実施していたため、それに参加をした。

#### 2. 大学生のための防災グッズ提唱に向けて

現地に行ったり、見学したりして学ぶだけでなく、私たちでこのプロジェクトの成果として形に残そうという試みでやっているのがこの「防災グッズの提唱」である。

プロジェクト経費で防災グッズを購入したので、機会があれば学内での展示をしたいと考えている。

### 第3章 結果や成果など

#### 1. 人と防災未来センターの提唱する防災グッズ

##### (1) 一次持ち出し品と二次持ち出し品

今回のプロジェクトを通じて、私たちが、成果を形に残したものが防災グッズの提案である。防災グッズの提案にあたり、ベースとなるものが、以下のとおりである。

##### ○一次持ち出し品

氷砂糖入り缶入り乾パン
ペットボトル入り飲料水
懐中電灯
ろうそく
ライター
携帯ラジオ
はさみ
ナイフ
缶切り
軍手(手袋)
丈夫なロープ
救急箱(救急セット)
レジャーシート
ブランケット
簡易トイレ
タオル
ポリ袋
トイレットペーパー
ウェットティッシュ
現金
布製ガムテープ
筆記用具(マジックなど)
携帯電話
預金通帳
保険証・免許証・パスポート
印鑑
女性用品(生理用品など)

##### ○二次持ち出し品

食料
飲料
給水袋
衣類
タオル
バスタオル
毛布
雨具
予備電池
卓上コンロ
ガスボンベ
鍋
ラップ
アルミホイル
やかん
皿
コップ
わりばし
スプーン
フォーク
歯ブラシ
石鹸
シャンプー
携帯電話の充電器
新聞紙
カイロ
安全ピン

参考資料)

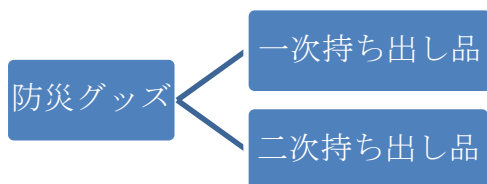
- ・ 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 非常持ち出し品チェックリスト
- ・ 京都市市民防災センターホームページ 非常持ち出し品のチェック

防災グッズには、一次持ち出し品と二次持ち出し品の二つの種類に分けることがで

きる。

一次持ち出し品とは、避難時にすぐに持ち出すべき必要最低限の物品のことである。日数によって定義すれば、最初の日をとりあえず生きていけるようにするための物品である。

それに対して、二次持ち出し品は、避難してから救援物資が届くまで自足するために必要なもののことである。多めに準備しておくにこしたことはないが、目安として、3～5 日程度自足できる分量を準備すればよいとされる。



## (2) 大学生向けの防災グッズの提唱

岩手大学でのアンケートからわかったこととして、携帯ラジオは外部からの情報を得るために私たちが想定していた以上に重要な役割を担っていることがわかった。岩手大学で「一次持ち出し品の中で大切と思うもの上位 5 個をあげてください。」というアンケートを 25 人にしたところ、全員が上位 5 位以内に挙げた。それだけ情報源としてのラジオが重宝されていると同時に、一次持ち出し品と銘打ってあるもののなかで最も大切な道具であることがわかった。

一般的な防災グッズを一覧にあげると、表のようになる。大学生が表のものをすべて揃えるのは数が多く、経済的な側面からきびしい。

そこで、私たちが提案するのは、最低限の防災グッズを持っておく。しかもそれら

は、日常の生活用品としても活用できるということを念頭に置き、防災グッズを提案する。そして、少しの知恵で役に立つ身近なものの紹介もしようと思う。

ただ、私たちの提案するものは本当に最小限度のものである。これだけあれば安心というレベルは個々人によって異なる。防災グッズの準備は、マニュアルにしたがって準備することが大切なのではなく、万が一のことを事前に考えておくということが大切で、考えたことにしたがって、自分に必要なものを準備することが大切である。つまりは、防災グッズは人によって異なり、日ごろから自分が使用しているものを中心に準備すればよい。

それでは、私たちの提案する大学生のための最低限防災グッズを紹介する。

### テーマ「安価で必要最低限」

飲料水

食べ物

懐中電灯

携帯ラジオ

(サバイバルシート)

携帯電話+充電器

東北地方の大学生に防災グッズとして準備すべきもののアンケートをおこなったところ、全員が携帯ラジオと懐中電灯については必要であると回答した。それらについて必要とされたのが、毛布やサバイバルシートといった暖を取る道具が必要と答えた。ただ、これについては、調査時期が 11 月であったこと、東北地方という寒い地域であったこと、震災発生時も夜は冷えたというさまざまな要因が重なって、このような結果となったと考えられる。

いまどき、ラジオを家に持っている家庭も少ないだろう。特に、一人暮らしをしている学生はラジオなど必要性を感じない。しかし、携帯ラジオはラジオ機能だけののであれば、安ければ1000円もしないくらいで購入は可能である。日常生活でいまどきの大学生が使うことも少ないであろうが、ラジオが必要だったというのが教訓であろう。

今の時代は、携帯電話はだれしものが持っているのが当たり前の時代となった。NTT docomo を例にとれば、3月12日時点では、4900局もの基地局でサービス中断を余儀なくされていた。携帯電話の情報収集はあくまでも2番目の手段で、やはり、情報収集の1番の方法はラジオからである。ラジオであれば、リアルタイムに緊急地震速報の情報を手に入れることもできたりとメリットも多くある。

防災グッズの提案に関するまとめをみると、防災グッズは人によって準備する量や物品が異なってくる。大事なのは非常時を想像すること。想像して自分が避難生活を過ごすにはどうしたらよいかを考え、そのイメージに沿って必要と思われるものを準備してほしい。この防災グッズに関することを「提案」としているのはそういった思いや、ひとつの決まったものの策定はできないというところからくるものである。ぜひとも防災に関する意識が上がってくればよい。

## 2. 便利な防災グッズ

近年は以下のようなものも発売されている。以下の商品を参考にして、「自分専用の防災グッズ」を作成してほしいと思う。

「手回し型発電機能・携帯電話充電機能付きラジオライト」

ラジオとライトを兼ねた手回し発電型の製品。多機能製品にすると、耐久性が懸念されるが、いざという



きに多くの機能があると便利である。このプロジェクトで実際に購入したのは、3000円とそこまで高価ではない。このような製品もうまく使いこなしていけば、役に立つと思う。

「サバイバルシート」

商品例) ハイマウント サバイバルシートG/S 500円程度



サバイバルシートという

のは、緊急用の保温シートである。アルミ蒸着ポリエステル製であるため、体から出る熱をシートで覆うことで、保温できる。また、コンパクトであり、持ち運びに便利ではあるが、日常的に使用することはあまりない。

「ラップ」

これが登場するのは、水道に支障をきたした時である。断水状態になれば、良い衛生状態を保つのが難しくなってくる。食事の時に、なるべくお皿を汚さないことも大切になってくる。そんなときに、お皿にラップをかけて使うことで、衛生的な状態を保つことができる。

「軍手 (手袋)」「丈夫なロープ」

これらは要救助者を救助する時に必要とされる道具である。できれば、革手袋の準備もしておくとし便利である。ロープは救助用だけでなく、洗濯物干しにも代用でき、意外と、用途多様。

「レジャーシート」「寝袋」

レジャーシートには、ブルーシートとアルミシートと 2 種類ある。レジャーシートの用途としては、避難先でのスペース確保である。視覚的に広さを示す物を持っているれば、避難先でもしっかりと自分のスペースとして確保できる。アルミシートはクッション性があり、そこで寝ることになった時に多少寝やすくなる。寝袋があればより寝やすくなることは間違いない。寝袋を広げることにより、シートとしての代用もきく。

「布製ガムテープ」「筆記用具 (マジック)」

これらは、主に伝言用として使用する。自宅に避難先をガムテープに書いて貼っておくというような使い方。

「給水タンク」「給水袋」

給水袋である。清潔なポリ袋があれば、それでも代用はきくが、ニーズはあるので防災グッズとしてしておくことをお



勧めする。今回、購入したのは 2 種類で 20 リットル入るものと、2.2 リット



ル入るものである。前者のものは 640 円と

そこまで高価ではなく、実用的な機能も備えており、自宅備蓄品としての投資の価値はあるように思う。後者のものは、ダイソー商品である。アウトドア用の商品として販売してあり、質の部分では若干気にかかるが、少量の持ち歩きと考えれば、悪くない。

「携帯用浄水器デリオス」

これは、マヨネーズの容器の形をした簡易浄水器である。避難先では飲料水の確保が必至である。そのため、浄水器を防災グッズに入れることを提



案する。浄水器に関して、巷でも安価な商品も出回っているが、あまり見たことのない製品を防災グッズとして提案・紹介することで、このような便利グッズの存在を知ること大切である。

「簡易トイレ」

衛生のことを考えると必要になってくる物品である。短期間の避難生活であれば、屋外で用を足しても衛生的な問題はそこまでないが、



それが長期間にわたって積み重なると、避難所の衛生上の問題が生じることとなる。今回購入したものは、サイズが大きく、単価に直すと 100 円程度である。

「サバイバルナイフ」

サバイバルナイフとはハサミや缶切りといった様々な機能を備えたもの。本来



はアウトドア用品として重宝される道具であるが、近年、防災グッズとしても重宝されるようになってきた。今回購入したのものには、ハサミ・ナイフ・缶切り・栓抜き・マイナスドライバー・プラスドライバー・コルク抜き・爪やすり・のこぎり・キリの10機能がついたステンレス製で980円ととても安価な商品。安価である分、質が劣るが、これを最安値としてさらにお金を出せば、より良いものが購入できる。

#### 第4章 まとめや反省、今後の展望など

##### 1. プロジェクト全体を通して

一番の反省はプロジェクト開始時期が夏休み明けになってしまったことと、プロジェクトの方向性が、一つに定まらず、様々なことに手を出し、よくわからなくなってしまったことである。このプロジェクトを開始するにあたって、震災を風化させないためにとにかく実施するということが決まっておらず、プロジェクトの具体化に手間取った。しかし、プロジェクトを進めるうちに、防災教育というものにも出会うことができ、日本における先進的な事例を多く知ることができたこともメンバー自身の学びとなった。

また、大学と書類のやり取りにおいて、提出書類の細かい不備を指摘され、その加筆・修正に一度書類を持ち帰り、再び提出に行かざるを得なく、日にちだけが過ぎてしまうという事態が発生してしまった。本

プロジェクトの反省課題でもあり、同時に、e-Project@kyokyo における大学側と学生側の双方にとって研究の進めやすい形を見つけることも今後の課題であろう。

##### 2. 大学生向けの防災グッズの提唱

大学生向けの防災グッズって何なのだろう。常にこの問いとぶつかりながらプロジェクトを終えた。とりあえず、私たちも大学生であるので、私たちの必要とするものが大学生向けの防災グッズであろうという一つの結論に至った。しかし、構成員が少ないうえ、忙しい二人であったため、客観的データの回収・集計があまりできなかった。この点は大切にすべきことであったにもかかわらず、おろそかにしてしまったことは非常にまずかった。

しかし、形としてかろうじて残すことはできたので、このプロジェクトで残すことのできたものを今後、何かしらの形で生かすことができたらよいと思う。

##### <参考・引用文献>

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 非常持ち出し品チェックリスト

[http://www.dri.ne.jp/oyakudachi/images/list\\_ver3.pdf](http://www.dri.ne.jp/oyakudachi/images/list_ver3.pdf)

京都市市民防災センターホームページ 非常持ち出し品のチェック

[http://web.kyoto-inet.or.jp/org/bousai\\_s/knowledge/k01/02.html](http://web.kyoto-inet.or.jp/org/bousai_s/knowledge/k01/02.html)

株式会社 NTT ドコモ 東日本大震災被害及び復旧状況 (2011年4月28日)

[http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/ir/binary/pdf/library/presentation/110428/notice\\_110428-1.pdf](http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/ir/binary/pdf/library/presentation/110428/notice_110428-1.pdf)